

オルビス、環境省による地域環境美化功績者表彰を受賞 2012年からの「甲州市・オルビスの森」プロジェクト

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:小林琢磨)は、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトが地域環境の美化に大きく貢献したとして、環境省より「地域環境美化功績者表彰」を受賞し、2020年11月1日(日)に山日YBSホール(山梨県甲府市)にて伝達式が行われました。



伝達式の様子
右:山梨県副知事 若林一紀氏



森林整備を行うオルビス従業員

オルビスは2012年から約10年間にわたり、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を、人と森をつなぐ里山として再生させる「甲州市・オルビスの森」プロジェクトを推進してきました。この森の再生を目的とした社員参加型のボランティアイベントを年に2回開催し、間伐や下草刈り、植林や遊歩道の設置等、様々な活動を継続して行っています。これらの長年にわたる取り組みが認められ、この度の受賞に至りました。

環境保全功労者等表彰者について

環境省が決定するもので、毎年6月の環境月間にあわせ、環境保全、地域環境保全及び地域環境美化に関して、顕著な功績があった者(又は団体)の功績をたたえるため、環境大臣による表彰を行っています。

「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原にある広さ約100ha(東京ドーム約21個分の広さ※)の市有林です。オルビスと甲州市は、アジア太平洋地域の国々で「農村開発」や「環境保全」等の活動を行っている公益財団法人オイスカの仲介により、同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。2021年までに里山の再生、2022年以降には人と自然との共生を目指し、地域と連携しながら「甲州市・オルビスの森」や、間伐材の有効活用に取り組んでいく予定です。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

オルビスの環境活動について

オルビスは1984年の創業当時より国内外で様々な環境負荷低減に取り組んできました。2002年からはオイスカとの協働により活動の場を拡げ、国内外の森林の保全・整備活動を展開しています。国内では、「オルビス・甲州の森」プロジェクト以前から、2002年より甲府市の「武田の杜」、2007年からは鳴沢村の富士山麓での保全活動を行っているほか、海外では、フィジー共和国の子供たちとの交流、マングローブの植林などを実施してきました。2019年にはこれらの長年にわたる取り組みが認められ、紺綬褒章を受章しています。

オルビスでは環境保全への取り組みを専用サイトでご紹介しています。

是非こちらもお覧ください。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>

【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
広報担当 Tel 03-3563-5540 / Mail webmaster@po-holdings.co.jp

※在宅勤務を推奨しているため、お電話が繋がらない際は、メールにてお問い合わせください。